

第 2 期事業報告

自 2021 年 7 月 1 日
至 2022 年 6 月 30 日

I. 事業の概要

2021 年 7 月～2022 年 6 月までの第 2 期においては、事業計画に基づく協議会運営に努めるとともに、2022 年 9 月から令和 3 年科学技術人材育成費補助金「リサーチ・アドミニストレーター等のマネジメント人材に係る質保証制度の実施（以下、URA 質保証事業）」の運営を開始した。また、2022 年 3 月には主として組織会員向けサービス及び新規組織会員獲得を目的とした「研究大学エグゼクティブフォーラム」を金沢で開催し、その結果として 2 機関が組織会員として入会した。このように、今期は安定的な協議会運営の基盤構築を進めるとともに、新たな活動にも取り組み、協議会として活動の多角化に向けた各種取り組みに着手した期でもあった。

計画していた事業については、新型コロナウイルス感染症の影響で、年次大会については 2020 年度同様完全オンラインでの開催となったが、上述の研究大学エグゼクティブフォーラムについては対面で実施するなど、イベントの開催についても柔軟に対応できるようになりつつある。大きな取り組みとしては、協議会の web サイトをリニューアルし、URA に関する情報発信機能の強化を図るとともに、会員間のネットワーキングの強化の観点から会員専用サイト（会員管理システムを含む）についても検討を進めた。また、各種専門委員会活動についても、会員から委員を募る方式を導入したことやオンライン会議の一般化に伴い、従来よりも活発に活動がなされた。その結果として、スキルプログラム専門委員会のテーマ別勉強会、情報発信専門委員会の情報発信ネットワーキングセミナーなど新たな取り組みが開始された。また、ジャーナル TF を新たに設置し、ジャーナルの発刊に向けた具体的な検討体制を整えた。

協議会が事業実施主体である URA 質保証事業については、2022 年 4 月から本格稼働が始まり、概ね順調に事業を推進している。また、URA については総合科学・イノベーション会議や文部科学省の審議会等でも引き続き注目されており、令和 4 年度科学技術・イノベーション白書では、「第 3 章 研究力を支える人材育成・研究環境整備、5 URA や技術職員等のマネジメント人材の育成、支援、確保について」において「日本における URA 制度の過程」としてこれまでの経緯が紹介された。

こうした状況を反映して、賛助会員として新たに 1 社入会するなど、URA に対する関心が依然として高い状況にある。引き続き我が国唯一の URA に関わるプラットフォームとして、当協議会の役割が重要であることが明らかとなった 1 年であった。

各事業の活動概要は次の通りである。

1. 活動促進事業

(1) 第7回年次大会の開催（参加者：620人 所属機関数：141機関）

第7回年次大会（筑波大学）をオンラインで開催した。年次大会については、質の向上の観点で第6回大会から進めていた改革期での実施と位置づけ、年次大会専門委員会を中心にセッションのあり方を見直して実施した。

(2) 新規会員の開拓

組織会員へのサービス及び新規組織会員獲得を目的に、主に大学執行部を対象とした研究大学エグゼクティブフォーラムを開催し、その結果として新たに組織会員として2機関が入会した。参加者の感想は概ね好評であり、URAの役割や重要性を大学執行部に直接アピールする場、さらには文科省等関係省庁関係者との人脈形成の場として今後の開催についても検討していくこととなった。

(3) 協議会の活動の多角化に向けた検討

協議会の活動に向けた検討については、第3期以降の継続課題である。

(4) 賛助会員へのサービス拡充

賛助会員として新たに1社が入会した。賛助会員サービスとして、第8回年次大会から賛助会員については2名まで無料で参加できるよう調整した。

2. 人材育成事業

(1) 新任研修の開催

これまで取り組んできた新任研修については、URAスキル認定制度との関係を考慮し、新たな枠組みで検討し、従来の5月、6月の開催時期もずらした上でURA実務者研修として実施することとした。なお、オプション研修については従来通り年次大会の前日に開催し、29人の参加を得た（修了証発行は25人）。

(2) 年次大会 教育セッションの開催

第7回年次大会において教育セッション「プレワードの基本知識と実施例（参加者：60人）」「外部資金獲得支援における情報の収集、分析、伝達と活用（参加者：130人）」を実施した。

(3) テーマ別勉強会の企画・支援

中堅URAを主たる対象としたテーマ別勉強会を企画・支援した。

(4) トピックフォーラムの企画・運営

トピックフォーラムの企画・運営については、活動促進事業として協議会執行部が主催の形で実施した。

3. 情報発信・普及啓発事業

(1) 会員間ネットワーキングに関する検討

会員間ネットワーキングの充実を図るために、会員管理システムを変更することとし、第3期から運用することとした。また、情報発信専門委員会主催で「情報発信ネットワーキングセミナー」を開催し、会員・非会員問わず多数の参加を得た（参加者：85人）。

(2) ジャーナル発刊に向けた検討

ジャーナルTFを設置し、ジャーナル発刊に向けた具体的な検討を進めた。

(5) 協議会 web サイトのリニューアル

RA 協議会の web サイトをリニューアルし、実際の URA の活動紹介を含む URA の周知も考慮したサイトに再構築した。

4. 連携推進事業

(1) Beyond INORMS 2021 の運営

第7回年次大会において INORMS 2021 and Beyond（次なるステージへ向かう RA 協議会の国際的活動）を開催した。また、INORMS の「Awards for Excellence in Research Management Leadership」ノミネート者の選定方法を検討した。

5. 特別事業

(1) URA 質保証関係

令和3年科学技術人材育成費補助金「リサーチ・アドミニストレーター等のマネジメント人材に係る質保証制度の実施」へ RA 協議会が申請し、採択されたことに伴い、URA 関係団体の協力を得て、URA 質保証制度の実施に向けた検討・調整を行い、2022年3月から URA スキル認定制度が開始された（実施主体は、新たに設置した一般社団法人リサーチ・アドミニストレータースキル認定機構）。

6. その他

特になし

II 会員状況 2022年6月30日現在(括弧内は2021年6月8日現在)

組織会員数：32機関（29機関）

組織内個人会員数：404人（392人）

組織外個人会員数：193人（211人）

特別会員数：3人（1人）

賛助会員数：4機関（3機関）

III 会議開催状況

1. 社員総会

第2期臨時社員総会 2022年6月22日(水) オンライン開催

第1号議案 理事の選任について

第2号議案 第3期事業計画書(案)及び事業予算書(案)について

第3号議案 会則の改正について

2. 理事会

第4回 2021年9月14日(火) オンライン開催

議案第1号 会長の選定について

議案第2号 副会長の選定について

議案第3号 会長特別補佐について

議案第4号 組織会員の入会について

議案第5号 専門委員会委員長の選任について

第5回 2021年10月13日(水) オンライン開催

議案第1号 代議員の承認(補充分)について

議案第2号 副会長の所掌及び理事の配置について

議案第3号 専門委員会等の長と委員について

議案第4号 定款・会則検討WGの設置について

議案第5号 会員サーベイWG(仮称)の設置について

議案第6号 質保証事業に関連する検討体制について

議案第7号 RA協議会の運営体制の見直しについて

議案第8号 トピックフォーラム(仮称)の開催について

議案第9号 謝金規程の改正等について

議案第10号 協議会サイトへの情報掲載基準について

第6回 2021年11月15日(月) オンライン開催

議案第1号 代議員候補者の推薦について

議案第2号 研究大学エグゼクティブ・フォーラム(トピックフォーラム)について

議案第3号 謝金規程の改正について

第7回 2021年12月20日(月) 書面附議

議案 一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会(以下「RA協議会」という。)のリサーチ・アドミニストレーターの質保証制度のための認定制度(以下「URA認定制度」という。)に係る新規設置機関「一般社団法人リサーチ・アドミ

ニストレータースキル認定機構（仮称）」（以下「スキル認定機構」という。）への
団体正会員としての入会について

第8回 2022年3月9日（水） オンライン開催

議案第1号 代議員の交代について

議案第2号 特別会員の推薦について

議案第3号 新会員管理システムへの移行について

議案第4号 一般社団法人リサーチ・アドミニストレータースキル認定機構事務局業務
の受託について

議案第5号 学生の入会及び学生会員の会費額について

第9回 2022年5月26日（木） オンライン開催

議案第1号 組織会員の入会について

議案第2号 代議員の交代について

議案第3号 第8回・第9回年次大会について

議案第4号 第3期事業計画書（案）及び収支予算書（案）について

議案第5号 会則の改正について

議案第6号 個人情報保護規程の改正について

議案第7号 URA 質保証事業 Advanced レベルへの対応について

議案第8号 一般社団法人リサーチ・アドミニストレータースキル認定機構理事への就
任について

各専門委員会，TF，検討会の事業報告は次の通り。

一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会
 専門委員会等事業報告書

※委員会等ごと2枚以内で作成してください。

期	第2期 (2021.7.1~2022.6.30)
委員会等名	年次大会専門委員会
委員会等 開催状況	<p>第7回年次大会の開催(2021年9月14日(火)-15日(水))(@筑波大)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会テーマ：組織の研究力強化はURAの活動で決まる！ ～情報収集・プロジェクト形成・外部資金獲得～ ・新型コロナウイルスの感染状況の拡大に伴い、特別セッションを除くすべてのセッションを全面オンラインにて開催 <p>第2期第1回専門委員会 (2021年11月5日(金))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年次大会専門委員による第7回年次大会の総括。アンケート結果の確認。 <p>第7回大会第2回実行委員会(2021年11月10日(水))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セッション実行委員を交えた第7回年次大会の総括および第8回大会への引き継ぎ事項の整理。主催は年次大会第7回実行委員会 <p>年次大会の引継ぎ式 (2021年11月26日(金))(@東北大)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第7回年次大会の総括及び抽出した検討課題を第8回大会に引継ぎ。 <p>第2期第2回専門委員会 (2021年12月14日(火))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第8回年次大会の概要、専門委員会と実行委員会の役割分担、課題の検討 <p>第2期第3回専門委員会 (2022年2月4日(金))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会テーマの決定、開催方法の検討、コンテンツの管理・運営方針(案)等 <p>第8回年次大会セッション実行委員募集説明会 (2022年4月5日(火))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会概要、セッション実行委員の位置づけと役割及び応募方法等を説明 <p>第2期第4回専門委員会 (2022年4月22日(金))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セッション実行委員募集説明会での質問に対する回答(案)、予稿集・プレゼン原稿などの登録システム(Confit)に関する説明 等 <p>第8回年次大会第1回実行委員会 (2022年4月27日(水))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問への回答および第2期第4回専門委員会での確認事項の説明。 <p>第8回年次大会第1回実行委員会(追加版) (2022年6月3日(金))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追加募集したセッション実行委員を対象に、上記(9)の内容を説明。

<p>具体的 活動内容</p>	<p>(1) 第7回年次大会の開催(2021/9/14(火)-15(水)):ハイブリッド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者:620名 所属機関数:141機関 ・特別セッション2件、会員セッション18件、参加者ネットワーキングセッション3件、専門委員会セッション3件、賛助会員セッション2件、非営利団体セッション2件、ランチョン2件の合計32件 ・個人のポスター発表は、追加募集分を含めて合計38件。大会期間を含む1週間でWEB投票を実施し、上位4件(第3位が2件あり)を表彰 ・情報交流会の代替策として、ホスト校の提案でオンライン交流会を開催 <p>(2)年次大会専門委員会の開催:WEB</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第7回年次大会の総括および第8回年次大会の開催概要の検討。仙台国際センター展示棟にて2022/8/30-31に、ハイブリッドで開催予定。 ・第7回年次大会(筑波大)から第8回年次大会(東北大)への引継ぎ。第9回大会開催校(東京都立大)がオブザーバとして参加。 ・第8回年次大会では、セッション予稿集および発表スライドは、事前に大会HPに掲載し、大会終了後も、参加者および期間限定で大会HP上に掲載し、ダウンロード可とする、候補は第7回大会で実績のあるアトラス社のConfit。 ・第8回年次大会セッション実行委員の募集説明会を開催 ・同募集説明会での質問事項に関する回答作成、セッション実行委員の応募状況の確認、原稿登録システム(Confit)の操作方法の確認等を実施 <p>(3)第8回実行委員会の開催支援:WEB</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セッション実行委員を交えた第7回年次大会の総括および第8回大会への引き継ぎ事項の整理等を実施。主体は年次大会第7回実行委員会 ・第8回年次大会セッション実行委員募集説明会での質問事項に関する回答及びプログラム(案)の共有化、原稿登録システムの操作方法の説明、等
<p>事業効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 第7回年次大会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・研究力強化に資する執行部やURA、事務職員などの連携の場の確立 ・研究力強化に係る最新情報の入手や人的ネットワークの構築 ・原稿登録システムの一部導入および運用による開催校の負担削減 ● 年次大会専門委員会および実行委員会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・年次大会の継続的な開催に向けた企画・運営体制の確立、および発表原稿登録システムの本格導入に向けた基盤の構築

<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●年次大会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・大会開催校及び RA 協議会事務局の負担を削減するために、原稿の収集・編集から掲載及び参加者登録を一体的に運用するシステム化が望ましい。 ・大学、研究機関などにおける研究力強化を取り巻く環境の変化に対応できるテーマ設定の仕組みを構築することが望ましい。 ●年次大会専門委員会および実行委員会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・年次大会はハイブリッドで開催することを前提に、セッション実行委員の募集や登壇者の確保の支援、及び賛助会員の支援等に取り組む必要がある。
<p>事業支出総額</p>	<p>7,709,496 円</p>
<p>備 考</p>	

一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会
 専門委員会等事業報告書

※委員会等ごと2枚以内で作成してください。

期	第2期 (2021.7.1~2022.6.30)
委員会等名	スキルプログラム専門委員会
委員会等 開催状況	第1回 7月6日(火) 15:00-16:30 Web 研修打合せ 第2回 7月27日(火) 13:00-15:00 Web 定期打合せ 第3回 8月25日(水) 9:00-12:00 Web 研修打合せ、定期打合せ 第4回 9月13日(月) 13:00-17:00 Web オptional研修実施 第5回 9月14日(火) 第7回年次大会 Web 教育セッション1 第6回 9月15日(水) 第7回年次大会 Web 教育セッション2 第7回 9月30日(木) 19:00-21:00 Web 打ち上げ 第8回 10月26日(火) 10:00-12:00 Web 定期打合せ 第9回 11月11日(木) 11:00-12:00 Web 新任研修2021 打合せ 第10回 11月19日(金) 13:00-15:00 Web 定期打合せ 第11回 12月9日(木) 13:00-15:00 Web 定期打合せ 第12回 1月13日(木) 13:00-15:00 Web 定期打合せ 第13回 2月10日(木) 13:00-15:00 Web 定期打合せ 第14回 3月2日(水) 13:00-15:00 Web 新任研修2022 打合せ 第15回 3月10日(木) 13:00-15:00 Web 定期打合せ 第16回 4月14日(木) 13:00-18:00 Web 定期打合せ、個別打合せ 第17回 5月12日(木) 13:00-15:00 Web 定期打合せ 第18回 6月9日(木) 13:00-15:00 Web 定期打合せ
具体的 活動内容	(1)Optional研修2021の実施(9月13日)、オンライン (2)第7回年次大会 教育セッション1の実施(9月14日)、オンライン (3)第7回年次大会 教育セッション2の実施(9月15日)、オンライン (4)テーマ別勉強会<試行>3グループのフォロー (5)2022 URA 入門 SPRING (2022年5月13日、27日実施予定)は中止 URA 質保証が2022年4月にスタートし新任研修の在り方について理事会内でコンセンサスが得られていない為
事業効果	(1)Optional研修2021の実施(9月13日) ・受講者29名(会員14名、非会員15名)、修了証発行25名 ・受講料合計 220,000円 (2)第8回年次大会 教育セッション1の実施(9月14日) K-1 根本

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 60 名参加、アンケート満足度 7.63 (3)第 8 回年次大会 教育セッション 2 の実施 (9 月 15 日) K-2 王 ・ 130 名参加、アンケート満足度 8.37 (4)テーマ別勉強会<試行>3 グループのフォロー ・ 研究力分析勉強会 ・ 外国人研究者支援勉強会 ・ 人社系研究者支援勉強会
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期打合せや研修を実施する Zoom インフラが必要 ・ 情報を共有するフォルダ Dropbox インフラが必要 研修時は印刷禁止、DL 禁止等の制御ができるモノ
事業支出総額	269,353 円
備 考	なし

一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会
 専門委員会等事業報告書

※委員会等ごと2枚以内で作成してください。

期	第2期 (2021.7.1~2022.6.30)
委員会等名	情報発信専門委員会
委員会等 開催状況	<p>第1回 (2021年11月19日 (金))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバー紹介と第2期活動計画について ・情報発信専門委員会の活動における、個人情報を含む情報取扱いルールについての確認 <p>第2回 (2021年12月17日 (金))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーキングイベントの企画検討 <p>第3回 (2022年1月28日 (金))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーキングイベントの登壇者、開催日時、開催方法について ・web サイト, twitter, Facebook 等の運用指針の策定にむけた取り組みについての検討 <p>第4回 (2022年4月27日 (水))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーキングイベント開催詳細決定 ・web サイト, twitter, Facebook 等の運用指針の策定にむけた取り組みについての検討
具体的 活動内容	<p>(1) 情報発信ネットワーキングセミナーの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「事務職員の立場からの研究推進・支援の視点を知る」 <p>実施日時 2022年5月30日 18:00~19:30</p> <p>話題提供1「事務職員とURAの協働が大学を変える－新規事業創出の視点から学ぶ－」</p> <p>山本貴大氏 (大阪大学 大学院情報科学研究科 庶務係長)</p> <p>話題提供2「大学リサーチ・アドミニストレーション組織について」</p> <p>山口光男氏 (福井大学 学術研究院基盤部門 産学官連携本部 専任講師)</p> <p>(2) web サイト, twitter, Facebook 等の運用指針の策定にむけた取り組みについての検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・web サイト, twitter, Facebook 等の管理者、運営者、利用者にヒアリングして実態調査を実施することについて議論した。
事業効果	<p>(1) 情報発信ネットワーキングセミナーの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日参加者85名 (URA約5割、事務職員約3割) で、RA協議会の

	<p>ホームページやメールなどで呼びかけた結果、RA 協議会非会員の方にも参加いただいた。(申し込み 110 名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日は講師 2 名からの話題提供に加えて、ブレイクアウトルームをつかったディスカッションを実施し、URA、事務職双方向でのネットワーキングが実現した。 ・アンケート結果（回答者 41 名）によると、参加者の大半がセミナーのテーマである事務職員との協業に興味があったことがセミナー参加の理由として挙げており、URA の機能や業務は事務職員との協業が重要という点で、URA、事務職員いずれの立場の方からも関心の高い内容であることがわかった。 ・セミナーの内容に大半の方が「満足」との回答で、今後セミナーを企画する場合に、7 割超の方が「また参加したい」との回答をいただいております、ネットワーキングへの関心の高さを伺えた。 ・セミナーの開催時間については、参加者から様々な意見があったものの、今回のように平日の夕方（17:30 以降）で 90 分での開催が多くの方に参加いただける形式であり、次年度以降も同様の形式で検討していく予定である。 <p>(2) web サイト， twitter， Facebook 等の運用指針の策定にむけた取り組みについての検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な調査に至っておらず、第 3 期の取り組みとして継続する。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信専門委員会のメンバーを募る ・web サイト， twitter， Facebook の運用実態の調査を行う ・イベントを通じたネットワーキングの実現 ・アンケート結果、希望等を次回活動に反映
事業支出総額	0 円
備 考	

一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会
 専門委員会等事業報告書

※委員会等ごと 2 枚以内で作成してください。

期	第 2 期 (2021.7.1~2022.6.30)
委員会等名	国際専門委員会
委員会等 開催状況	<p>2021 年 10 月 13 日 (水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員長交代および新規委員承認結果についての報告 <p>第 1 回：2021 年度第 1 回 (2022 年 2 月 17 日 (木))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各委員の自己紹介 ・ 追加国際専門委員の候補者について ・ 副委員長、2 名の選出および書記 (議事録作成者) の選出について <p>・ これまでの国際専門委員会の委員会活動と今後の予定について</p> <p>第 2 回：2022 年度第 1 回 (2022 年 4 月 14 日 (木))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ RA 協議会年次大会の国際企画セッションについて ・ INORMS のノミネート者の選定方法について 「Awards for Excellence in Research Management Leadership」 ・ RA 協議会の国際専門委員会のホームページの活用 INORMS2023 の正式アナウンス情報掲載、英語版の作成など <p>第 3 回：2022 年度第 2 回 (2022 年 5 月 6 日~9 日 (メール審議))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度の年次計画および予算案作成および修正 ・ 年次大会国際専門委員会のセッション内容について ・ 次年度開催予定の勉強会について ・ 委員会活動の英語化及び発信方法について
具体的 活動内容	<p>(1) 新規委員の勧誘と依頼</p> <p>(2) 年次大会 国際セッションの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9 月 14 日 (火) 「INORMS 2021 and Beyond (次なるステージへ向かう RA 協議会の国際的活動)」 オーガナイザ：三代川典史 (広島大)、講演者：三宅雅人 (奈良先端大)、園部太郎 (京都大)、十津川剛 (東京都立大)、Jason Sanderson (熊本大)、坂井華海 (熊本大)、清戸義博：(広島大)、荒木裕子：(広島大) <p>(3) 国際専門委員会の活動内容に関する再設定</p>
事業効果	<p>(1) 委員長 1 名、1 名の副委員長、委員 7 名による新体制の構築</p> <p>(2) 第 7 回年次大会での国際セッションの開催</p> <p>(3) INORMS2021 後の国際専門委員会の活動内容についての設定 (継</p>

	続審議中)
今後の課題	これまでの国際専門委員会では、INORMS2021 の企画および運営を行ってきた。2021 年 10 月に、委員長および委員を交代した。今後は、RA 協議会の国際専門委員会として、新規の企画など、委員会の活動内容について議論し、新たな委員会の活動内容を決定していく必要があると考えている。
事業支出総額	0 円
備 考	

一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会
 専門委員会等事業報告書

※委員会等ごと2枚以内で作成してください。

期	第2期 (2021.7.1~2022.6.30)
委員会等名	ジャーナルタスクフォース
委員会等 開催状況	<p>第1回 (2021年11月15日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔合わせ及び議論&作業の全体方向性の確認 ・各メンバーからの意見聴取 ・2018年にジャーナルについて検討した際の議論内容の共有 <p>第2回 (2022年5月17日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創刊までの大まかなスケジュールを議論 ・創刊までに検討すべき事項の洗い出し ・検討すべき内容を3チーム(基本的事項チーム/出版インフラチーム/収支モデルチーム)で分担して検討し、2週に一度程度のペースのミーティングで議論する事を決定。 <p>第3回 (2022年5月26日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創刊に向けた作業のタイムラインをチームごとに作成 ・各チームの検討内容を大雑把に議論 <p>第4回 (2022年6月27日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創刊号については、依頼原稿を中心に構成する提案を決定 ・一方、需要の予想される、投稿原稿の掲載も2号以降について可能とする案を検討。
具体的・ 活動内容	<p>(1) 創刊に向けたタイムラインを以下の通り暫定設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8/10 理事会までにジャーナルの基本事項、発刊体制、予算の提案を策定 ・9月下旬：編集委員任命(目安) ・10月上旬：J-STAGE 利用申請/ジャーナルの予算確定 ・10月下旬～コンテンツ具体案決定 ・11月下旬～寄稿依頼 ・2023年2月原稿〆切 ・5月 J-stage 登録、紙媒体印刷 ・6月創刊号出版 <p>(2) RMAN-J Journal (仮称) の狙い等、基本的事項の検討と立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子出版形態：J-STAGE を活用した電子出版形態/一部紙媒体の提

	<p>案策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・執筆規定（案）/編集規定（案）等検討 ・依頼原稿と投稿原稿の検討、後者の掲載判断、掲載料を検討 <p>(3) 出版インフラ発行運営体制の検討と立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創刊号のコンテンツ案検討 ・創刊号については宣伝のため広く紙版を配布する案を策定 ・編集査読管理システム Editorial Manager の導入のコストパフォーマンスを検討 ・編集作業の詳細について代行依頼可能な作業範囲を調査 <p>(4) 収支モデルの検討と立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャーナルの発行は原則会員サービスと位置付け、会費収入が主である RA 協議会予算から発行運営コストを出す案を策定 ・広告収入に依存した運営でなく、広告収入の分だけ RA 協議会からの予算配分を減らすと基本方針を策定 ・ジャーナルの財務的運営に要する出納は、原則 RA 協議会事務局にその機能を置く案を策定
事業効果	<p>(1) 本タスクフォース(TF)の目的は理事会に対して RMAN-Journal（仮称）発刊にむけた、必要事項の提案である。本 TF の提案をもとに理事会で最終方針が決まり、ジャーナル発刊体制が始動し、2023 年 6 月に創刊号発刊の想定である。その時点において、RA 協議会の活動内容が広く様々なステークホルダーに伝えられ、また、会員同士の RA 業務に関する情報交換の場が与えられる事を、目指す事業効果である。</p>
今後の課題	<p>可能な限り詳しく現実的な予算案の作成。その前提となるジャーナルの基本事項案の決定。</p>
事業支出総額	<p>0 円</p>
備考	

一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会
 専門委員会等事業報告書

※委員会等ごと2枚以内で作成してください。

期	第2期 (2021.7.1~2022.6.30)
委員会等名	将来構想検討会
委員会等 開催状況	<p>■随時下記のようなアジェンダで検討。(その回特有に議論した内容などは、各回に記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織会員、個人会員(組織内外)、賛助会員へのサービスのあり方 ・年次大会 2021 に関する委員会間の連携、調整 ・RA 協議会会員実態調査昨年の実施状況と内容 ・トピックフォーラム(仮称)のコンセプト(最終的に、エグゼクティブフォーラムとなる) ・理事、代議員の役割、方向性について ・効率的な理事会運営について ・委員会構成について、委員長の役割など ・事務局機能について ・将来構想検討会そのものの今後について(理事懇として提案) ・アカデミアの100%子会社の会員についての考え方 ・定款・規定の改定のメンバー/やり方/スケジュール <p>■開催状況</p> <p>第1回(2021/7/2(金) 6/28の社員総会后)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来構想検討会の位置づけと役割、類似の活動と合わせて <p>第2回(2021/8/2(月))</p> <p>第3回(2021/8/26(木))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期RA協議会の理事の顔ぶれについて <p>第4回(2021/9/6(月))</p> <p>第5回(2021/10/4(月))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年次大会当面の運営体制(一部外注など)についての共有 <p>第6回(2022/1/5(水))</p> <p>第7回(2022/3/22(火))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回EFのフォロー <p>第8回(2022/4/13(水))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WGや検討会の体制と、統一した名称や条件→事務局で整理

	<ul style="list-style-type: none"> ・新規組織会員の勧誘活動のフォロー <p>第9回（2022/5/9（月））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今期及び次期事業計画について
具体的・活動内容	<p>(1) エグゼクティブフォーラムの企画・運営</p> <p>第1回 2022年3月11日（金）金沢にて開催</p> <p>第1部 14:00-15:00 第2部 15:15-17:30 第3部 18:00-20:00</p> <p>詳細は第6回理事会（2021.11.15日）にて承認、報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数：オンライン 43名、オンサイト 55名
事業効果	<p>(1) エグゼクティブフォーラムの企画・運営</p> <p>→組織会員2大学の新規加入</p> <p>(2) 理事懇談会という会議体の提案</p>
今後の課題	<p>本会議体は、主に一般社団法人化への各種規程等整備、任意団体からの移行に伴う設計・手続き業務、業務企画等への対応のため、2023年6月末までの時限体制で設置されたもの。今後、本協議会の特徴・体制・規模を踏まえ、活動最適化のためどのような体制とするか、継続検討する必要がある。</p>
事業支出総額	0円
備考	

IV. 第2期の運営体制(2022.6.22 現在)

役員（登記簿記載順）

役職名	氏名	備考
会長	山崎 光悦	
副会長	高橋 真木子	総務担当
副会長	佐治 英郎	財務担当
副会長	森倉 晋	事業担当・年次大会専門委員会委員長
理事	柴田 徹	スキルプログラム専門委員会委員長
理事	徳田 加奈	
理事	杉原 伸宏	
理事	寺本 時靖	
理事	三宅 雅人	国際専門委員会委員長
理事	加藤 英之	ジャーナル TF 委員長
理事	石田貴美子	情報発信専門委員会委員長
理事	小谷 元子	
監事	馬場 忠	

代議員（五十音順）

阿部 仁	佐治 英郎	徳田 加奈	宮川 明
池田 雅夫	佐野 恵利子	永木 康博	三宅 雅人
石田 貴美子	柴田 徹	中山 俊秀	三代川 典史
宇根山 絵美	篠谷 賢一	西村 薫	村上 壽枝
大小原 努	嶋田 庸嗣	野呂瀬 寿	森倉 晋
垣田 満	白井 哲哉	花屋 実	矢吹 命大
加藤 英之	杉原 伸宏	馬場 忠	山崎 光悦
川人 よし恵	杉山 梨恵	原田 隆	山本 外茂男
岸本 遼	高橋 真木子	樋口 隆信	和田 隆志
北村 浩三	玉村 好司	福田 直子	王 鴻香
小谷 元子	寺本 時靖	藤松 佳晃	

専門委員会委員等

◎委員長 ○副委員長

	委員会等	委員等（長を除き五十音順）	備考
専門委員会	年次大会専門委員会	◎森倉 晋 稲穂 健市 古賀 敦朗 佐野 恵利子 嶋田 庸嗣 ○寺本 時靖	
	スキルプログラム専門委員会	◎柴田 徹 磯部 靖博 植木 千尋 大部 真紀 垣田 満 北岡 タマ子 久保 琢也 佐々木 健一 設楽 愛子 玉村 好司 ○徳田 加奈 三和 正人 ○矢吹 命大 王 鴻香	
	情報発信専門委員会	◎石田 貴美子 川谷 健一 川人 よし恵 杉山 梨恵 中渡瀬 秀一 原田 隆 宮田 知加	
	国際専門委員会	◎三宅 雅人 池元 英樹 宇根山 絵美 北村 浩三 坂井 華海	

		鈴木 環 西村 薫 村上 舞	
	ジャーナル TF	◎加藤 英之 ○天野 絵里子 稲石 奈津子 諏訪 桃子 中渡瀬 秀一 松山 紀里子	
時 限 付 き 会 議 体	将来構想検討会	◎高橋 真木子 稲垣 美幸 柴田 徹 白井 哲哉 高野 誠 三宅 雅人 森倉 晋	旧 RA 協議会第 14 回 運営委員会で承認済
	International Alliance Group	◎三宅 雅人 高橋 真木子 ハリス・ケイト 三代川 典史	旧 RA 協議会第 12 回 運営委員会で承認済
	URA 質保証事業 推進委員会	◎森倉 晋 池田 雅夫 佐治 英郎 高橋 真木子	第 3 回理事会承認済